

北縁の古墳文化とその交流 ―横手盆地を中心に―

福島大学 菊地 芳朗

はじめに

- ・ 近年確認例が増加している横手盆地の古墳文化関連遺跡の検討をつうじ、これらの遺跡のもつ意味や他地域との交流のあり方を考える。
- ・ 横手盆地の遺跡とともに対象とするのは、基本的に古墳が築かれない東北北部3県の遺跡のうち、古墳文化に属する遺構と遺物が検出されたもの。また、これらの比較検討のため、南方・西方の古墳文化の遺跡を取り上げる。
- ・ 東北南部を中心とする古墳時代の枠組みやその年代にかんする菊地の理解については、図1を参照いただきたい。

1. 横手盆地の古墳文化

(1) 遺跡の概要 (図2)

中期の遺跡

- ・ 一本杉遺跡：竪穴建物5棟など
- ・ 小出遺跡・神谷地遺跡：竪穴建物2棟、掘立柱建物3棟など
- ・ オホン清水遺跡：竪穴建物1棟、土坑など
- ・ 会塚田中遺跡：土坑2基など
- ・ その他：一本木遺跡、五味川遺跡、郷土館B遺跡、大久保郡山遺跡、上野遺跡（大仙市）

後期の遺跡

- ・ 田久保下遺跡：土壙墓8基（土壙墓は北方系。出土遺物が古墳文化のもの）

終末期（飛鳥時代）の遺跡

- ・ 宮東遺跡（竪穴4）、樋向遺跡（竪穴2）、下藤根遺跡（竪穴2）、釘貫遺跡（竪穴3）、オホン清水遺跡（竪穴1）
- ・ 秋田県で数少ない末期古墳である横手市蝦夷塚古墳群・羽後町柏原古墳群のなかに、7世紀にさかのぼるものが含まれる可能性がある。

(2) 遺跡の特徴

- ・ 前期の可能性のある遺物がいくつかの遺跡で少数出土。遺構は未確認。
- ・ 中期の遺跡は集落のみ。墳墓は現在のところ確認されない。建物は外周溝をもち、竈をもたない。
- ・ 後期の遺跡は、北方系の墓が現在のところ1例のみ。
- ・ 終末期に集落が再び確認されるようになり、以後は遺跡数が拡大し、8世紀代の雄勝城等の成立に結びつく。終末期以降の建物には竈が設置される。

2. 北縁の古墳文化の遺跡と遺物 (図3)

(1) 太平洋側

- ・ 日本海側に比べ、古墳文化に属する遺構・遺物が明らかに多く確認されている。特に岩手県奥州市周辺、岩手県盛岡市周辺、青森県八戸市周辺に集中する状況が見られる。
- ・ 遺跡動向は、前期は少なく（奥州市高山遺跡、盛岡市永福寺裏遺跡、久慈市新町遺跡など）、中期中葉～末に最盛期を迎え、後期にいったん縮小した後、終末期における末期古墳の成立とともに遺跡数と分布範囲が拡大する。
- ・ 基本的に古墳文化の内部にある宮城県大崎平野では、北方系の遺構・遺物（土壙墓、続縄文土器、黒曜石製石器など）が検出される遺跡も多く、特に中期に北方と密な交流が行われる。加美町壇の越遺跡、大崎市木戸脇裏遺跡など。北方系遺構・遺物は仙台平野にも一部およぶ。

太平洋側の中期主要遺跡

- ・ 岩手県奥州市角塚古墳（最北の前方後円墳）、同中半入遺跡・沢田遺跡・石田遺跡（角塚古墳に近接する大規模集落と墳墓）、盛岡市薬師社脇遺跡（土壙墓）
- ・ 青森県八戸市田向冷水遺跡（集落）、同おいらせ町中野平遺跡（集落）、同七戸町森ヶ沢遺跡（土壙墓群）

(2) 日本海側

- ・ 太平洋側に比べ少ないが、各時期の重要遺跡が存在。

横手盆地外の東北日本海側の遺跡

- ・ 能代市寒川遺跡（前期の土壙墓）
- ・ 男鹿市小谷地遺跡（中期の集落？）

- ・ 由利本荘市宮崎遺跡・井岡遺跡（前期～中期の集落・祭祀遺跡？）。
- ・ 奈良時代以降の墳墓群とされる秋田市小阿地墳墓群、五城目町岩野山墳墓群、鹿角市枯草坂墳墓群、青森県平川市原墳墓群などに、終末期にさかのぼるものがあるか？

3. 横手盆地の古墳文化とその特徴

(1) 横手盆地の古墳時代併行期の動向

- ・ 前期から古墳文化の波及がみられる（他地域との交流そのものは古墳時代前から長く続く）が、その交流はさほど活発ではない。中期に活況を見せるものの後期にいったん低調になり、終末期に再び活発化し律令国家体制下にいたる。
- ・ 建物が確認されない前期や後期に人々の暮らしがなかったと考えるのは適当でない（同じころの太平洋側でも建物はほぼ見られない）。通常の発掘調査では検出が難しい構造の建物が使用されていたと考えるべき。ただし、人口密度は低かったとみられる。
- ・ 中期の遺跡は、中葉～後半（5世紀中葉～末）に集中。この年代や遺跡動向は太平洋側とほぼ一致するとともに、その遺跡数は胆沢平野や八戸市周辺に劣らない。横手盆地独自の動きではなく、汎列島的な広域交流の一端とみなすべき。
- ・ 後期の遺跡がほとんどない/少ないことも、太平洋側や東北南部の古墳文化地域と共通。一時的な寒冷化の可能性もある。
- ・ 終末期の集落増加は、律令国家体制確立期における西方からのアプローチとそれに呼応した地域社会の活性化の一環として位置づけるのが妥当。しかし、太平洋側にくらべさほど活発といえないことも事実。『日本書紀』等に見られる日本海側関連の文献記事の多さと対照的。

(2) どこと、どのような交流をしていたのか？

- ・ 出土土師器と建物構造をもとにすれば、横手盆地の古墳文化はおもに日本海側から波及したとみるのが妥当。山形県新庄盆地の古墳文化遺跡が皆無に等しいことと、横手盆地の関連遺跡が盆地南半西部に偏ることをふまえれば、波及のメインルートは由利本荘—横手（おおよそ現在の107号国道に相当）とみられる。
- ・ 横手盆地の中期の交流の中継点となった可能性の高い由利本荘市西目町付近、庄内平野、新潟県下越の中期の遺跡動向を、これまで以上に注視することが必要。
- ・ 現状では、古墳時代における横手盆地と太平洋側との交流は明確でなく、より北方の地域との交流も見えない。しかし、まったく関連がなかったか否かの追及が今後も必要。

- ・ 横手盆地に古墳文化が波及したのは、この地域の特産物資（毛皮等）と西方の鉄製品等との交易をおもな要因とみるのが妥当。農耕関連遺構・遺物は確認されていないが、種籾がもたらされ稲作が行われた可能性も十分考えられる。
- ・ 日本海側には、太平洋側の仙台平野・大崎平野ほどの有力な北縁の古墳文化発信拠点が存在しなかったことが、古墳時代をつうじた遺跡数の差となって現れたと推定。しかし、海上交通の有利さから、終末期以降はむしろ日本海側が北方との交流のメインルートとなる。

おわりに ー日本海側北縁の古墳文化の特質と意義ー

- ・ 大局的には太平洋側の北縁の古墳文化と連動するが、地理的・歴史的環境の相違により、交流の相手先やその規模に小さくない違いをみせる。
- ・ 前期はヤマト政権による日本海側重視の傾向がみられ（新潟・会津が典型）、太平洋側との相違や規模の差はさほど目立たないが、中期はヤマト政権の半島・大陸重視策や、東日本における毛野（群馬）の強大化等により、太平洋側内陸部の遺跡や交流が顕著となる。しかし、その“余波”は日本海側にもおよび、横手盆地等の集落の成立に結びつく。
- ・ 中期併行期の北海道の続縄文遺跡から出土する馬具、石製模造品、須恵器等の古墳文化遺物は、おそらく日本海ルートによりもたらされたもの。秋田県沿岸部は、その中継地として重要な役割を果たす。これに横手盆地の関与があったか否かは現状では不明確。
- ・ 寒冷化やヤマト政権の政策変更（継体朝の成立）等により、後期の古墳文化北縁地域の遺跡動向（太平洋側ふくむ）は様相を一変させてきわめて低調となり、それが田久保下遺跡等の北方系要素の濃い遺跡の成立につながると推定。一方で、須恵器が出土していることは、この地域と古墳文化との交流が維持されていたことをしめす意味で重要。
- ・ 終末期になると、日本海側は対北方交流の中継点としてより重要な位置を占め、横手盆地も内陸部の拠点として各種遺跡が成立するとともに社会統合が進み、雄勝城・払田柵へと結びつく。しかし、これらは無住の地に突如として成立したのではなく、古墳時代以来の断続的な交流とそれにもとづく社会発展を基礎にしたものとみるべき。
- ・ 横手盆地をふくむ北縁の古墳文化関連地域・遺跡は、顕著な遺構・遺物は少ないものの、物的・人的資源の供給源としてヤマト政権を支える重要な役割を果たす（古代以降においても同様）。古墳文化研究、続縄文文化研究の双方から、東北北部のもつ意味をこれまで以上に追及することが必要。

【文献】（報告書は主なものをあげました）

- 阿部義平2008『国立歴史民俗博物館研究報告』第143・144集，国立歴史民俗博物館
- 井上雅孝・早野浩二2013「岩手県岩手郡滝沢村大釜館遺跡出土の宇田型甕について」『筑波大学先史学・考古学研究』第24号，筑波大学歴史・人類学系
- 小保内裕之2006『田向冷水遺跡Ⅱ』，八戸市教育委員会
- 利部修 2004「秋田の古墳時代土器とその遺跡」『出羽の古墳時代』，高志書院
- 菊地芳朗 2010『古墳時代史の展開と東北社会』大阪大学出版会
- 菊地芳朗 2012「東北」『古墳時代研究の現状と課題』上，同成社
- 工藤雅樹 2004『東北古代史 史料集』，多賀城市史跡案内サークル
- 小林克ほか 1988『一般国道7号八竜能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』，秋田県教育委員会
- 小松正夫 2004「秋田県の古墳概要」『出羽の古墳時代』，高志書院
- 小松正夫ほか 1987『宮崎遺跡発掘調査報告書』，西目町教育委員会・秋田市遺跡保存会
- 島田祐悦 2004「蝦夷塚古墳群」『出羽の古墳時代』，高志書院
- 島田祐悦 2009「横手市蝦夷塚古墳群出土の玉類について」『平成20年度横手市郷土資料館紀要』，横手市教育委員会
- 島田祐悦編 2018『一本杉遺跡』，横手市教育委員会
- 鈴木琢也 2016「擦文文化の成立過程と秋田状交易」『北海道博物館研究紀要』第1号，北海道博物館
- 鈴木俊男 2004「柏原古墳群」『出羽の古墳時代』，高志書院
- 高木晃ほか 2000『中半入遺跡・蝦夷塚古墳』，（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 高橋学ほか 1992『秋田ふるさと村（仮称）建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』，秋田県教育委員会
- 納谷信広 2001「西目町宮崎遺跡出土の土師器について」『秋田考古学』第47号，秋田県考古学協会
- 日高 慎 2001「東北北部・北海道地域における古墳時代文化の受容に関する一試考」『海と考古学』第4号，海交史研究会
- 澤谷敬・和泉昭一 1984『秋田県横手市オホン清水 ～第3次遺跡発掘調査報告書』，横手市教育委員会
- 藤澤敦 2013「古墳時代から飛鳥・奈良時代にかけての東北地方日本海側の様相」『国立歴史民俗博物館研究報告』第179集，国立歴史民俗博物館

時代	弥生時代	古墳時代					奈良時代				
		早期	前期	中期	後期	終末期					
年代	AD 200	300	400	500	600	700					
須恵器			T K 73	T K 216	T K 208	T K 23	T M T K 15	T T T K K 10	T K 43	T K 209	飛鳥様式
土師器		塩釜	南小泉	引田	佐平林	舞台	栗園				
古墳		古墳1期	古墳2期	古墳3期	古墳4期	古墳5期					

図1 東北の古墳時代の枠組みとその年代〔菊地2010〕

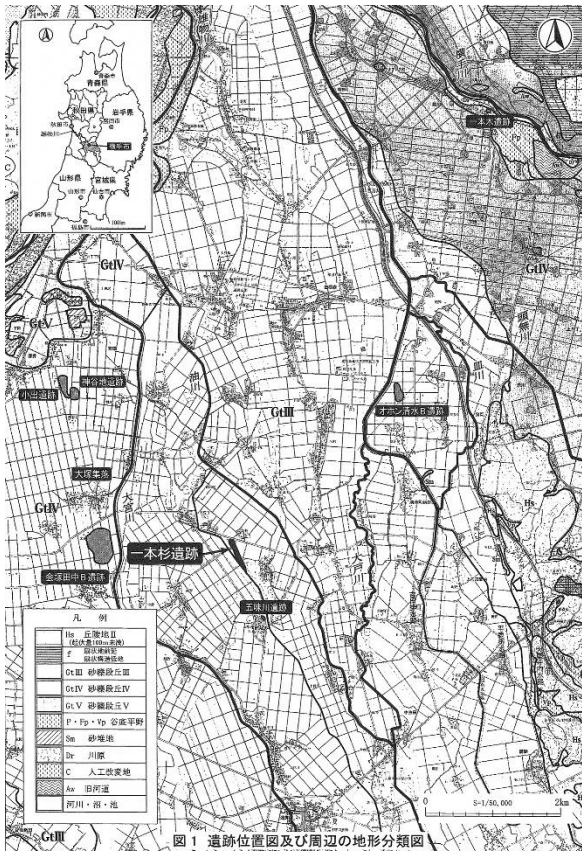


図2 横手盆地の主要な古墳文化遺跡 (島田他 2018)

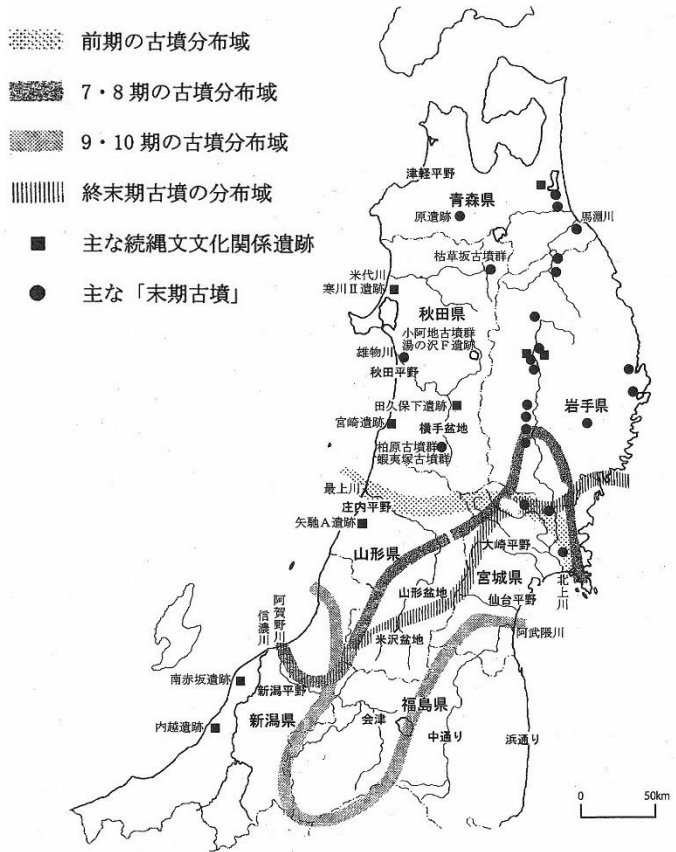


図3 東北の主要な古墳文化関連遺跡 (藤澤 2013 一部改変)

- 前方後円墳
- 前方後方墳
- ※大きい印は複数存在を示す

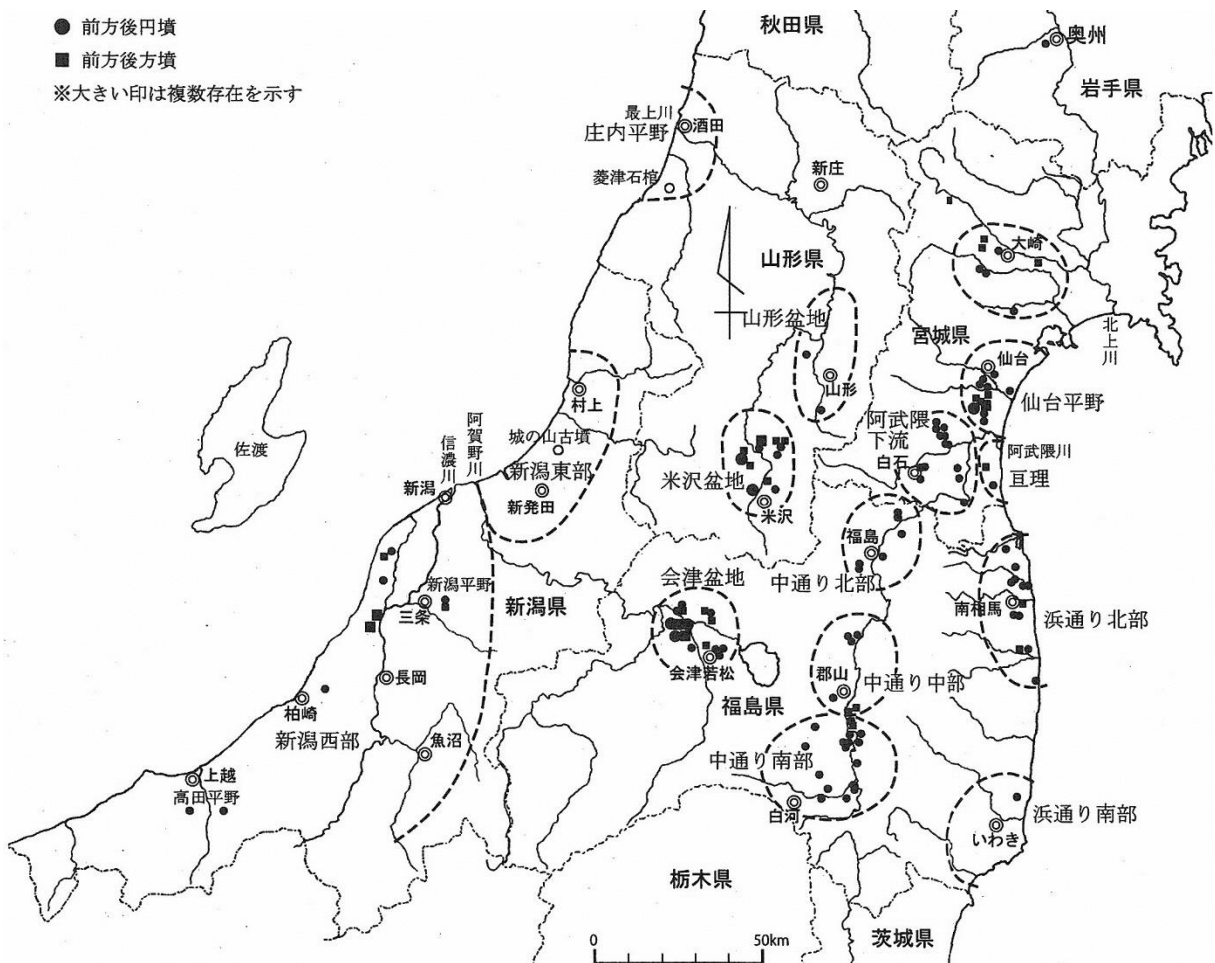


図4 東北・新潟の主要古墳の分布 (藤澤 2013)